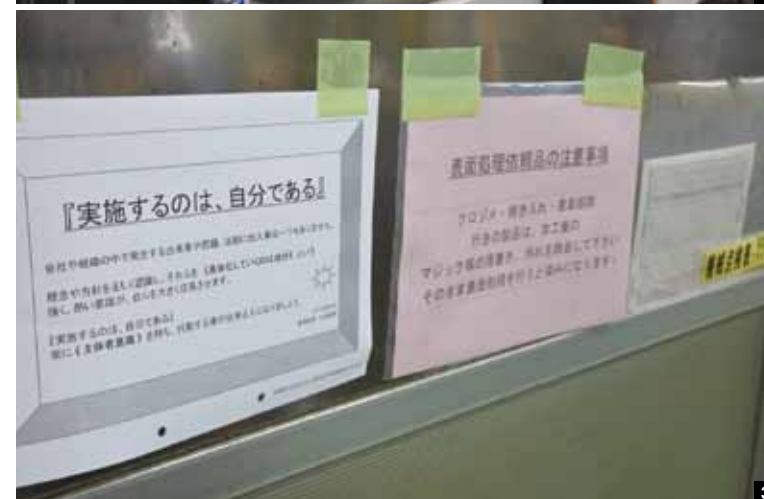


5軸加工機を導入し「一品もの」のゲージを製作。複雑形状の航空機部品に対応し、受注を大きく伸ばす



部品の定規と呼べる機器「ゲージ」を手がける。部品形状が複雑になるほど、ゲージ製作も難しくなる



1. 導入した5軸加工機。航空機部品向けゲージの加工精度を高めた
2. ものづくり補助金を活用して設備投資を再開した
3. 標語を掲示して社員に主体者意識を持つよう呼びかけている
4. 「社員にも相談して購入したい工作機械を決めている」と語る寺西正明社長

わたなべせいみつこうぎょう

所在地	： 愛知県名古屋市中区十一番1-59-1	従業員	： 49人
設立年月	： 昭和22年10月	TEL	： 052(383)8282
資本金	： 2400万円	FAX	： 052(383)8324
		URL	： http://www.WSL-G.co.jp

設備投資をしなくてもできず

渡辺精密工業は自動車や航空機の部品の寸法が規定内に収まっているか測定する機器「ゲージ」を手がける。部品の定規と言える存在で、部品の形状が複雑になるほど、ゲージの製作も難しくなる。特に航空機部品はその傾向が強く、ベテラン社員の職人技が物を言う。

一方で、ゲージを加工する工作機械の設備投資を十分にできていなかった。特に1990年代は、全くできていなかったという。寺西正明社長はブラザー工業に勤務していたが、義父が渡辺精密工業の経営陣だった縁で、平成12年に後継者候補として36歳で入社。平成15年に社長を引き継いだ。

それまでと全く違う環境に身を置くことになり、ゲージに関する技術・知識がなかったことから、「お客様や社員との信頼関係を築きあげることに、多くの時間を費やさざるを得ない状況が続いた」（寺西社長）。

補助金を活用し工作機械を購入

その間も、リーマン・ショックの影響もあり、十分な設備投資をできなかった。中古機械を購入して対応していたが、ゲージは対象の部品ごとにオーダーメイドする一品もので、高精度な加工が求められる。寺西社長は「どのような工作機械が必要で、どれからそろえるべきか考えていた」と設備投資計画を入念に練っていた。

そうした中、ものづくり補助金の存在を知り、平成24年度補正ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業に申請。計画を頭に描いていたことで、スムーズに書類を作成でき、採択された。数値制御（NC）研削加工機を導入したのに続き、平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業も申請、採択を果たし、5軸加工機を導入した。

量産型の工場で5軸加工機を導入するケースは多いが、一品ものの工場では珍し

い。通常は費用対効果が合わないと断念するが、ものづくり補助金がそれを可能にした。

航空機向けで大活躍する

5軸加工機は航空機部品の複雑な形状に対応したゲージを製作するのに、大活躍した。ゲージをぴったりの寸法で加工でき、失敗する危険性は大きく減った。寺西社長は「航空機向けは全て5軸加工機で製造している」と信頼を寄せる。

航空機向けで大きな受注となったのが、米ボーイングの大型旅客機「787」の部品向けゲージだ。寺西社長は「航空機向けとしてはかなりの量が出た」と振り返る。受注済みの次の仕事は、ボーイングが平成29年に量産開始予定の次世代大型旅客機「777X」のエンジン向けゲージだ。寺西社長は「787ほどの生産量になれば」と期待する。

投資を続けて人も育てる

ものづくり補助金の活用は続いた。平成

26年度、平成27年度も採択され、放電加工機などを導入した。さらに最新の工作機械を導入したい考えで、NC治具研削盤に注目している。寺西社長は「5年連続はさすがに難しいかも」と苦笑いしつつ、次の申請に意欲を見せる。

設備投資を続けるのは、ベテランの職人技に頼る状態から転換を図るためだ。寺西社長は「会社の中心はあくまで人」と前置きしつつ、「ある程度の経験があれば、誰もができるようにする」と狙いを説く。「高精度な加工をするハードルを下げる」（寺西社長）との表現に、設備投資によって目指す姿が表れている。

次代を担う若手も育ちつつある。この数年間に入社した社員が、工場の改善活動に積極的に参加しているという。寺西社長は「主体者意識を持ってくれており、頼もしい」と喜ぶ。工作機械も、それを使いこなす社員も進化していくのが、渡辺精密工業の目指す姿だ。

CASE

15

渡辺精密工業株式会社

試作開発

+

設備投資

対象類型

ものづくり技術

事業類型

成長分野型

渡辺精密工業株式会社

航空宇宙業界向けの複合角度複雑形状切削を可能とする設備投資の実施と高効率試作開発加工並びに技術伝承のチャレンジ